

事業報告

平成30年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ①

平成30年6月30日(土)～7月1日(日)

【対象】幼児と保護者

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用した、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供する。また、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1 日 目	10:40～11:00 受付					アイス ブレイク 開会式	昼食	入室・活動準備	自然の中で遊ぼう アドベンチャーハイク		休憩	つどい	入浴・夕食	キャンプファイヤー	絵本読み聞かせ 【園児】	就寝
															シヨッフ ワーク 【親】	
2 日 目	起床	つどい	朝食・荷物整理	清掃点検	親子運動遊び ～家庭でできる運動遊び～		親子で料理に挑戦 ・パエリア ・フルーツポンチ		閉会式	14:20 解散						

～参加者～

19家族(大人：23名、幼児：19名、小学生：3名)計：45名 (長野県、愛知県、埼玉県)

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「アドベンチャーハイク」 ～自然の中で遊ぼう～

講師：信州大学経済学部教授 古屋顯一氏・ボランティア

古屋先生の指導の下、川わたり、崖のぼり、丸太にチーム全員が乗るなど、自然を活用した様々な課題の解決を通し、親子、家族同士の絆を深めた。ボランティアは導入の劇をしたり、ゲームの進行役として積極的に声掛けをしたりして、子供のやる気を引き出した。



活動Ⅱ キャンプファイヤー

講師：信州大学経済学部教授 古屋顯一氏・ボランティア

古屋先生に御指導いただき、ボランティアが進行し、親子で歌やゲームを楽しんだ。点火はマジックファイヤーで行われ、自然に火がつくと参加者から歓声があがった。ボランティアは1人1ゲーム以上を担当し、リーダーシップを養うと共に、会場を盛り上げた。参加親子、ボランティア、職員が一体となったキャンプファイヤーとなった。





活動Ⅲ 講義（親対象）

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

「今、子供の教育に必要なこと」と題して、親向けの講義を柳澤先生にいただいた。運動することで神経が発達すること、神経の発達には10歳でピークに達することを最新の脳科学とともに学んだ。翌日の親子運動遊びで、保護者が初日に比べて積極的に子供とかわかっており、講義を受けて子供との関わりに変化が見られる有意義な内容であった。

活動Ⅲ 絵本の読み聞かせ（幼児対象）

講師：絵本専門士 谷口和恵氏

「よかったね ネットくん」「ごきげんのわるいコックさん」などの絵本の読み聞かせを行っていただいた。導入の手遊びから、幼児たちは物語の世界に引き込まれ、真剣な表情で聞き取っていた。またボランティアも先生と一緒に前に立って参加する場面があり、今後の活動に役立つ貴重な経験となった。



活動Ⅳ 親子運動遊び～家庭でできる運動遊び～

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

柳澤先生の指導の下、プレイホールで親子運動遊びを行った。前半にボランティアのサポートで子供が運動する様子を親が観察し、後半は親が子供をサポートしながら、子供と一緒に運動を行った。親からの子供への積極的な働きかけにより、子供は「もう一回、もう一回」と意欲的に運動に取り組むことができていた。

活動Ⅴ 親子で料理に挑戦

メニュー「パエリア」「フルーツポンチ」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

親子やグループで協力して野外調理を行った。火起こしや火の調整を担当する親子と、材料を切ったりする親子とに分かれ、グループで協力して作業をすすめた。子供が作業できる場面を保護者が積極的に作っていて、子供も野外調理を体験し満足感を得ることができた。



～参加者の声～

- ・アドベンチャーハイクで自然の中で様々な試練を頑張って乗り越える姿が多く見られて嬉しかった。普段は体験できない動きや活動ができました。
- ・親子運動遊びで、子供ができること、できないこと、できそうなこと様々な姿が見られよかった。今後も家でも継続したいと思った。
- ・キャンプファイヤーではボランティアが熱くみんなで楽しむ雰囲気を作ってくれたので、みんなが楽しめていたと思う。最初は乗り気でなかった自分の子供も最後は輪に加わって参加できました。
- ・講義を聞いて10歳まで楽しんで付き合おう！と強く思いました。子供を産んでからこういう勉強をしたことがなかったのでとてもありがたかった。

～成果と課題～

- 天候に恵まれ、屋外での活動が予定どおりでき、参加者からは普段できない活動ができたという感想が多くあった。講師の先生にご指導いただいた活動内容や、ボランティアに対する良い評価の言葉をたくさんいただいた。
- 活動が盛りだくさんで充実した反面、忙しい日程となっている。今後子供の様子を見ながら内容を工夫する必要がある。

事業報告

平成30年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ②

平成30年9月1日（土）～9月2日（日）

【対 象】幼児と保護者

【場 所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用した、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供する。また、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1日目	10:40～11:00 受付					アイスフレイク 開会式	昼食	入室・活動準備	～家庭でできる 運動遊び～		休憩	つどい	入浴・夕食	キャンドルファイヤー	絵本読み聞かせ 【園児】	就寝
2日目	起床	つどい	朝食・荷物整理	清掃点検	アドベンチャーハイク	親子で料理に挑戦 ・豚汁 ・おにぎり			閉会式	14:20 解散						

～参加者～

15家族（大人19名、幼児17名、小学生1名）計：37名（長野県、愛知県、埼玉県、三重県）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 親子運動遊び～家庭でできる運動遊び～

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

柳澤先生の指導の下、プレイホールで親子運動遊びを行った。前半は保護者がボランティアの学生と、幼児が運動プログラムを行う様子を見て、後半で体を使った親子運動の実践を行った。全身を使って、親子でコミュニケーションを深めることができた。



活動Ⅱ キャンドルファイヤー

講師：信州大学経済学部教授 古屋顯一氏

雨天のため、室内でキャンドルファイヤーを行った。室内のため、互いの距離が近く、ボランティアのレクリエーションや歌、ゲームが伝わりやすく、会場が一体となって楽しむことができた。また、ボランティアは前回の経験を生かし、ゲームの順番を工夫したり、何回も練習を重ねたので、参加者を飽きさせない、メリハリのあるキャンドルファイヤーとなった。



活動Ⅲ 講義（親対象）「今子どもの教育に必要なこと」 講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏



「今、子供の教育に必要なこと」と題して、親向けの講義を柳澤先生にいただいた。参加者は午前中の親子運動遊びの実践を振り返りながら、子どもが運動を好きになるために必要なことを学習することができた。

また幼児期の親子の触れ合いの重要性を再認識したという感想が寄せられた。

活動Ⅲ 絵本の読み聞かせ（幼児対象）

講師：絵本専門士 谷口和恵氏

大型絵本「めっきらもっきらどおんどん」、紙芝居「おばけの森」「なぞなぞあそびうた」などのバラエティーに富んだ絵本の読み聞かせを行っていただいた。特に大型絵本では子どもたちは身を乗り出すようにして聞きっていた。



活動Ⅳ 「アドベンチャーハイク」

講師：信州大学経済学部教授 古屋顯一氏・ボランティア

前日の雨天で野外での活動ができなかったため、室内でアドベンチャーハイクを実施した。風船やバドミントンの羽が乗ったブルーシートを高く持ち上げ落ちてくるものをすべてキャッチするゲームや、背中合わせで3つの風船をゴールまで運ぶなどチームワークや工夫することが必要なゲームを行うことで親子、家族同士の活発な交流が生まれ絆が深まった。



**活動Ⅴ 親子で料理に挑戦 メニュー
「おにぎり」「豚汁」「フルーツポンチ」**

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

親子で一緒に調理し子どもが参加できる機会が多く持てるよう、身近な献立の上記の3つの調理を行った。特に、おにぎりを握る作業は大勢で楽しむことができ、班で会話を楽しみながら作ることができた。今後の課題として、保護者の中にはもっと凝った献立を希望する声もあったので、狙いを踏まえつつ親も子も楽しめる献立を工夫する。



～参加者の声～

- ・キャンプファイヤーできなかったのは残念だったが、楽しくゲームが出来てよかった。
- ・2日目のアドベンチャーハイクが印象に残った。雨天だったが数々のゲームを用意してもらって、グループで協力しあえて良かった。
- ・前回に引き続き2回目の参加だったので、親子運動遊びで繰り返し練習できて、子どもが目標を見つけることができていた。
- ・野外調理では家とは違ってどんどんやりたがって一緒に楽しむことができた。

～成果と課題～

○雨で屋外での活動はできなかったが、早めに天候判断をして、準備を行ったので混乱なく実施でき、充実した活動を行えたという感想が多く寄せられた。

●保護者も絵本の読み聞かせを聞いてみたいという感想が複数あり、運動プログラム以外にも親子で一緒に楽しむ機会を検討したい。

事業報告

平成30年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ③

平成30年11月10日(土)～11月11日(日)

【対象】 幼児と保護者

【場所】 国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用した、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供する。また、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1 日 目	10:40～11:00 受付					開会式 アイスブレイク	昼食	入室・活動準備	アドベンチャー ハイク		休憩	つと	入浴・夕食	キャンドル ファイヤー	絵本読み聞かせ 【園児】 講義 【親】	就寝
2 日 目	起床	つと	朝食・荷物整理	清掃点検	～家庭でできる 運動遊び～	親子運動遊び	親子で調理に挑戦 ・ハッシュドビーフ ・バターライス ・チョコフォンデュ		閉会式	14:20 解散						

～参加者～

13家族（大人15名、幼児13名、小学生3名 未満児1名計：32名（長野県、愛知県、埼玉県）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「アドベンチャーハイク」

講師：信州大学経法学部教授 古屋顯一氏

硫黄沢と西尾根を中心に屋外で活動を行った。

グループで課題に挑戦し親子や家族の絆を深めた。落ち葉の中に置いたはさみや、洗濯バサミといった人工物を見つけたり、箱の中に入れた松ぼっくりや枝、葉などの自然物に触って、同じものを自然の中から見つけたりして、五感を使って自然を感じるゲームを展開した。



活動Ⅱ キャンドルファイヤー

講師：信州大学経法学部教授 古屋顯一氏

古屋先生の指導のもとボランティアが企画運営を行った。じゃんけん列車や海賊船ゲームなど全員で体を動かすゲームをしたあと、最後は「大きなカブ」を題材にした影絵をボランティアが演じて、参加者に歌をプレゼントした。参加者は歌を聞きながら、一緒に口ずさみ、静かな雰囲気ですべての活動を振り返った。



活動Ⅲ 講義（親対象）

1. 「今、子どもの教育に必要なこと」 講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏
2. 「野外で使える技術実習」 講師：信州大学経済学部教授 古屋顯一氏



柳澤先生の講義では、幼児期の運動の重要性について学んだ。古屋先生の技術実習では、野外活動や生活に生かせるロープワークを学んだ。参加者は習った結び方を、繰り返し練習し、熱心に取り組んでいた。

活動Ⅲ ボランティアによる絵本の読み聞かせ（幼児対象）

第1回・2回のキャンプで絵本専門士の先生から読み聞かせを学んだボランティアが紙芝居や大型絵本を選び、読み聞かせを行った。子どもたちは絵本の世界に引き込まれ、聞き入った。



活動Ⅳ 親子運動遊び～家庭でできる運動遊び～

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

柳澤先生の指導の下、プレイホールで親子運動遊びを行った。鉄棒に見立てた棒を使って、体を持ち上げたり、親の背中をとび箱に見立て馬跳びをしたり、親子の触れ合いを通して運動の実践を行った。家でも実践したいという感想が多く聞かれた。



活動Ⅴ 親子で料理に挑戦 メニュー

「ハッシュドビーフ」「バターライス」「チョコフォンデュ」

秋の野外調理で気温が下がるため、煮込み料理や、火を囲みながら団らんを楽しめるよう上記の3つの調理を行った。幼児も子ども包丁を使って材料を切ったり、薪を運んだりして、調理に参加し親子やグループで楽しみながら調理を行った。



～参加者の声～

- ・アドベンチャーハイクが印象に残っている。家にあるものや自然にある身近なものでこんなにも楽しめるのかと思いました。集めた落ち葉でドラゴンの絵を作るのが楽しかった。
- ・アドベンチャーハイクの崖下りは、初めての体験で子どもも達成感があったようです。親子で二日間思いっきり体を動かして楽しめました。
- ・ロープワークを実際に見て、自分でもやってみて勉強になりました。もっと時間がほしかったです。前日に学んだロープワークを野外で実際に使ってみるのもやってみたい。

～成果と課題～

- アドベンチャーハイクで落ち葉を使ってグラデーションの絵を完成させたり、野外調理で煮込み料理をするなど季節を感じる活動を行うことができた。
- 11月開催のため、第1回目。2回目に比べ幼児の月齢が高くなっている分、アドベンチャーハイクで崖を下る課題を設定したり、親子運動遊びで鉄棒を取り入れたり、発達段階に合わせて、応用的な活動を取り入れた内容とすることができた。
- 幼児期の親子運動遊びの普及のため、各回募集で3回を実施したが、複数回参加する参加者も多かった。